

大学の施設と文芸パーティーについて

高橋あすみ

みなさんこんにちは！高橋あすみです。山西省にきてあっという間に3ヶ月が経ちました。政治面では日中関係に緊張が走っていますが、私は相変わらず穏やかにトラブルひとつなく中国での生活を続けられています。11月は中間試験のほか中国語の公的資格であるHSKに挑戦するため毎日図書館に通ったり、夜は12月初旬に開かれた国際学生の文芸パーティーのためにダンスパフォーマンスの練習に参加したりと毎日休みなく忙しくも充実した毎日を過ごすことができました。本日は11月の生活の大部分を占めた勉強と文芸パーティーをテーマに、中国の大学施設と国際学生の文芸パーティーの詳細についてご紹介しようと思います。

中国の大学施設の特徴はなんといっても一つ一つが大きく広々としている点です。実は大学に限った話ではありませんが、わかりやすく具体的な規模感を大学の施設紹介をもってお伝えしようと思います。例えば私が授業を受けている理科楼は主に理系学科の授業を行う場所ですが、一つの棟に90ほどの教室が入っていると伺いました。同じように食堂もエスカレーターが設置されており、一つの食堂に30ほどのレストランが入っています。

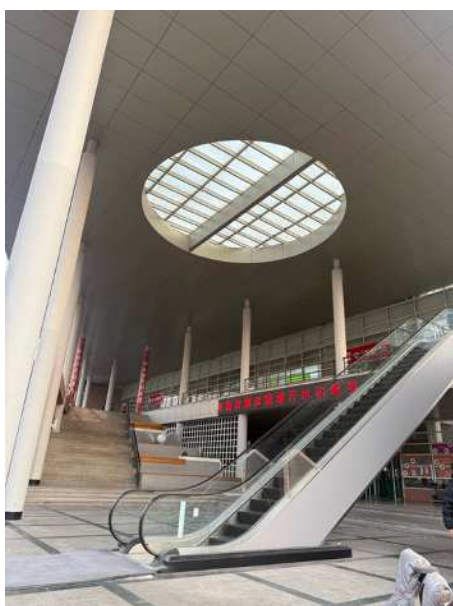
そして何より、私にとって衝撃的だったのは図書館です。試験期間やHSKの準備期間は毎日図書館に通い勉強しましたが、たくさんの日本との相違点を発見しました。現代中国の厳しい学歴社会の話を目にしたことがある人は少なくないと思いますが、実際に中国の学生は非常に勉強熱心です。理科楼でも図書館でも、たとえ試験期間でなくとも常に勉強する学生やプレゼンの練習をする学生など、とにかく真剣に学業に打ち込む姿で溢れかえっています。試験期間は特に図書館内に大量に設置された座席一つを取ることも困難なほどで、そのため座席は独自のシステムを使った予約および登録制が導入されています。面積、体積自体も非常に大きく、壁画や書道などの作品展示も常に行われています。

中国の学生は勉強熱心だと記しましたが、それには中国の学生や同僚間で特有の競争のような雰囲気に関係するかもしれません。私は山西省に来る前に何度か「中国の学校生活は常に競争だ」という話を聞いたことがありましたが、実際中国にきて彼らの姿勢を見ると、その認識も間違いではないと感じます。留学生の中国語クラスでも、やはりクラスメイトは共に学ぶ仲間でありながら、お互い置いていかれないようにと切磋琢磨している雰囲気を感じており、特に11月はその雰囲気に非常に励まされ、勉強に精が出ました。この風潮は

決して悪いことではなく、お互い高め合い自分自身を奮い立たせられる環境であると感じています。

次に、先日開かれた国際学生の文芸パーティーについてのお話です。10月の終わり頃から出し物の準備が始まり、毎晩大学内のどこかで留学生たちが音楽を流しパフォーマンスの練習をしている姿を目にし、キャンパス内には常に活気が溢れていました。また、本番までに2回ほど先生方がパフォーマンスの進捗を確認しにきてくださり、みんなより一層気を引き締めてパフォーマンスの質を上げるため練習に力が入っていました。この準備期間は、単なるお遊戯会ではなく先生方も参加しみんなで一つのものを作り上げるという結束した雰囲気、団結力が特に強く感じられました。パーティー当日の演目には、留学生たちが自国の伝統的な民族衣装を披露するファッションショーや伝統舞踊などが並び、パーティーは非常に華やかなものになりました。中国だけでなく世界各国の出会ったことのなかった文化を存分に味わうことができ、とても有意義な時間を過ごしました。留学全体についても、中国について学ぶというだけではなく世界各国や日本について学び見つめ直すという視点は、留学を通して得られる成果の中でも特に大きな一つの要素であると考えており、またいつかの機会に詳しくお話ししたいと思います。

さて、今回もここまでお読みいただきありがとうございます。今月は主に2点のテーマについてお話ししましたが、また中国文化に関する活動や中国人学生との交流の詳細についても、来月以降にこちらのレポートでお伝えできればと考えております。それではまた来月お会いしましょう！



二つある食堂の一つです。食堂自体は二階建てですが、地下にはスーパーなどが入っています。



大きな図書館。至る所に勉強机と座席が用意され、人によっては椅子や座布団を持参して階段などで勉強する学生も見られます。



パーティーの様子。全ての演目がとても煌びやかでした。